

2012年6月議会 反対討論

まつざき 真琴

2012/6/18

私は、日本共産党県議団として、提案された議案のうち、4件に賛成し、反対する2件のうちの主なものと、請願・陳情についての委員会審査結果に反対するもののうちの主なものについて、その理由を述べ討論いたします。

まず、議案第63号「鹿児島県事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例制定の件」についてであります。

この中には、「地域の自主性及び自立性を高める改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」の施行により、「電気用品安全法」、及び「消費生活用製品安全法」が一部改正されたことに伴い、これまで、条例において3市に権限移譲されている事務が、すべての市に権限移譲されることとなったための改正が含まれています。

1999年の「地方分権一括法」によって、機関委任事務が廃止されたさい、合わせて都道府県知事の事務を条例によって市町村長の事務とする「条例による事務処理特例」が定められました。本県でも、「権限移譲プログラム」が策定され、様々な県知事の権限が市町村長に移譲されてきました。これについては、あらかじめ、当該市町村長と協議することが必要とされており、これに基づく権限移譲については、わが会派は、反対はしてきませんでした。

ところが、いわゆる「第2次一括法」は、市町村の意思を無視し、法律によって、ほぼ一律に権限を押し付けるものになっており、本来、国や都道府県が広域的な政策の観点にたって、責任をもつべき事項が移譲の対象になってはいないか、公害規制分野などで、移譲によって事業者等にたいする規制機能が実質的に果たせなくなるのではないか、職員の専門性の保全と継承、人的な配置と育成が保障されないのではないかなど、様々な点での懸念があります。

本議案の対象となっている「電気用品安全法」は、電気用品による危険及び障害の発生を防止すること、「消費生活用品安全法」は、消費生活用製品による一般消費者の生命又は身体に対する危害の防止を図ることなどを目的として定められています。

今回、一律に県内の全市に権限移譲される事務は、このような目的のために行われる報告の徴収や立ち入り検査、製品の提出命令や損失の補償などを行う権限であり、職員の専門性や人的配置などを考えると、市の負担が大変重くなることや、規制機能が実質的に果たせなくなることが予想され、ひいては、県民の安全が守れなくなるおそれがあるものです。

よって、本議案には、賛成できないものです。

次に、請願第4002号「教育予算の拡充を求める意見書の採択要請について」であります。これは、委員会審査結果では、不採択でありましたが、これは採択すべきであることを主張いたします。

本請願は、離島や山間部が多いという地理的特性を持つ本県において、教育の機会均等を保障し、さらに、子どもたちに豊かな教育環境を整備するための施策と予算措置を求めて、国への意見書提出を求めるものであります。

同負担金は、憲法と教育基本法で定める国民の教育権を保障する重要な制度です。教育の機会均等を保障し、全国的な教育水準を確保するために国が財源保障に責任を負う制度として設けられたのです。これが、2006年度から2分の1が3分の1に減額され、あわせて総額総量制が導入されたことから定数崩しが行われ、臨時、非常勤教員の配置が拡大されてきました。

本県においては、複式学級での学習指導等の改善や小学校の低学年における少人数学級の実施など、それなりの独自の努力をされていますが、これらについて、国において、財政的な保障がなされてこそ、より、きめ細やかな教育の充実がはかられ、県内どこで生まれ、どこで生活しても、行き届いた教育がなされることとなります。

本請願は、そのための国の予算措置を求める意見書提出を請願したものであり、本県議会としては、採択し、直ちに国に意見書を提出すべきであります。

次に、陳情第1011号「消費税の大増税をしないことを求める陳情」について、委員会審査結果では、継続審査でありましたが、これは採択すべきであることを主張いたします。

これは、鹿児島県商工団体連合会の代表者から出されたものでありますが、本県は、企業のうち、99.9%が中小企業であります。

規模の小さい企業ほど、消費税を価格に転嫁できないというのは、中小企業庁などが行った全国のアンケートでもあきらかであります。

消費税の増税は、中小業者の経営を押しつぶし、地域経済をどん底に突き落とすこととなります。

今、民主、自民、公明の3党は、密室談合で、消費税増税を押し付けようとしています。国会での、このような暴挙を許さず、本県の住民の暮らしと業者の経営、地域経済を守るために、本陳情は採択し、直ちに、政府に対して、消費税増税に反対する意見書を提出すべきであります。

以上で、反対討論を終わります。